

ユーザーガイド

Profoto B1X

他の言語は以下にアクセスしてください。
www.profoto.com

 **Profoto**

新しいProfoto製品をご購入いただきありがとうございました。

ご購入いただいた製品が新しいフラッシュであれ、新しいライトシェーピングツールであれ、その製造にはほぼ半世紀の経験が込められています。

そうした年月から当社が気づいたことが1つあるとすれば、それは1つの細部も決して無視してはならない、ということです。当社は、当社が完全に信頼している製品のみ当社の名前を付けています。出荷前に、一つひとつの製品が膨大で、厳しいテストプログラムに合格しています。指定されたパフォーマンス、品質、および安全性に適合していない場合、出荷されません。

その結果、当社は、新しいProfoto製品がお客様の長年にわたるパートナーとなり、お客様がフォトグラファーとして成長するのを支援できると確信しています。しかし、製品の取得は、旅の始まりにすぎません。ライトシェーピングのために当社製品を使用することは、真の冒険です。そういうわけで、当社は、お客様にこのような幅広いライトシェーピングツールの取り揃えを提供することを誇りに思っています。それらにより、お客様は、想像できるあらゆる方法で光を形作ることができます。

ほとんど無限の可能性に最初は戸惑うかもしれませんが、私たちはお客様がすぐにそのコツをつかむと確信しています。

それでも私は、お客様に www.profoto.com/newsletter で当社のニュースレターにサインアップするか、または www.profoto.com/blog から当社のブログにアクセスすることをお勧めします。そうすることにより、50年近くのライトシェーピングの当社の経験を共有でき、更なる成長に向けてお客様を後押しできると考えています。どうぞProfoto製品をお楽しみください。

Conny Dufgran (創立者)

一般的な安全注意事項



安全注意事項

装置を使用する前には取扱説明書および付属の安全のための注意事項をよく読んでください。この Profoto に関する注意事項は必ず装置の側に保管してください! Profoto 製品はプロの使用を想定して設計されています。ジェネレーター、ランプヘッド、アクセサリ類は屋内での撮影以外に使用しないでください。湿気、極端な電磁場に露出する可能性のある場所または可燃性ガスやほこりのある場所で装置を置いたりまたは使用してはいけません! 装置を水没させたり水滴のかかる場所で使用しないでください。花瓶など、水分の入った容器を装置の上やそばに置かないでください。湿度の高い状態で装置を極端に温度差のある環境に置かないでください。そうすると、装置の内部に結露が発生します。この装置は他のメーカーのフラッシュ機器と接続しないでください。付属の保護用ガラスカバーまたは保護用グリッドがない状態でフラッシュヘッドを使用しないでください。ガラスカバーにひび割れや深い傷など、目に見える破損があり通常の効果が得られない状態になっている場合は使用せず正常なものと交換してください。ランプが損傷したり熱で変形した場合は交換してください。ランプをホルダーに取り付ける際は絶対に素手で電球を触らないよう注意してください。装置の点検、改造、修理は、認定された資格を有する要員のみが行う必要があります。警告 - フラッシュシンボルが表示された端末は危険です。

4



警告 - 装置は高電圧のため、電気ショックには十分気を付けてください。

電源ジェネレーターは常に保護アース接続のある電気コンセントに接続されていなくてはなりません。Profoto製の延長コード以外は使用しないでください! ジェネレーターやランプヘッドの蓋を開けたり、分解したりしないでください! 装置は高電圧の電力で作動しています。ジェネレーターのキャパシタは電源を切った後も長時間帯電したままになっています。アンブレラの金属製の支柱をリフレクターの穴に差し込む際はモデリングランプやフラッシュチューブに触れないよう注意してください。モデリングランプやフラッシュチューブを交換する際は、ランプヘッドとジェネレーターを接続するランプヘッドケーブルを取り外してから行ってください。電源プラグや電源接続器は、断路装置としての役割を担っています。断路装置は常に操作可能でなければなりません。バッテリー (バッテリーパックまたは取り付けられたバッテリー) は、太陽光、火などの過度の熱に露出させてはなりません。



注意 - やけどの危険 - 高温部品

装置の高温になっている部分には素手で触れないでください。モデリングランプ、フラッシュチューブ、その他いくつかの金属の部品は使用中に高温を発生します! モデリングランプやフラッシュチューブを人に向けて近付けすぎないようにしてください。ランプはすべてごまかれに破裂し、高温の破片が飛び散ることがあります! モデリングランプに接続する電源がユーザーズガイドのテクニカルデータの電源の欄に書かれている定格電圧に合致していることを必ず確認してください!

NOTICE

注意 - 装置の過熱の危険性

ランプヘッドの持ち運び用キャップは使用前に外してください! フィルターや拡散性の物質を装置の吸気口や排気口の前に置いて空気の流れを妨げたり、ガラスカバーやモデリングランプ、フラッシュチューブの上に直接それらの物を置くことは絶対に避けてください!

無線周波数に関する注意事項!

この装置は、無線周波スペクトルを用い、無線周波エネルギーを発生します。デバイスがシステムに組み込まれている場合は、適切なケアを行う必要があります。必ず本文書に記載のすべての仕様、特に動作温度と供給電圧範囲に関する仕様に従ってください。装置が現地の規制に基づいて作動していることを確認してください。本装置が使用している周波数スペクトルは他のユーザーと共有されています。インターフェースは除外できません。



廃棄

装置は環境に有害である可能性のある電気および電子部品を含んでいます。装置はプロフォト販売店に無料でご返却いただき、WEEEに従ってリサイクルすることができます。廃棄の際は、廃棄物の個別処分のための現地の法的要件、例えばヨーロッパ市場での電気および電子器具のためのWEEE指令を遵守してください。

目次

各部名称	7
操作	10
クイックガイド	10
電源オン/オフ	11
Normal (通常) / Freeze (フリーズ) モード	11
光出力 (エネルギー) の変更	12
同期設定の選択	13
モデリングライト設定	15
充電完了信号の設定	15
取扱い	17
バッテリーの搭載	17
バッテリーの充電とメンテナンス	17
スタンドの取り付け	18
Profotoライトシェーピングツールの取り付け	18
フロントガラスの交換	19
フラッシュチューブとLEDモデリングライトの交換	19
その他	20
TTL	20
HSS	20
温度制限インジケータ	21
ファームウェアの確認	21
ファームウェアのアップグレード	21
テクニカルデータ	22

各部名称



1. ハンドル
2. チルトロックノブ
3. スタンドアダプター
4. クランプねじ
5. リフレクターとフロントガラス
6. ズームスケール
7. アンブレラホルダー
8. バッテリー
9. バッテリーリリースボタン



10. USBポート

11. 同期コネクタ

12. IRスレイブアイ



13. LCDディスプレイ

14. モデリングボタン

15. テストボタン

16. エネルギー/設定ダイヤル

17. 充電完了ボタン

18. 同期ボタン



- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 19. モデリングライト設定 | 23. 光出力の設定 |
| 20. 充電完了シグナル設定 | 24. フリーズモードインジケータ |
| 21. 同期/Air設定 | 25. 温度制限インジケータ |
| 22. バッテリーレベルインジケータ | 26. 自動フラッシュ露出(TTL)インジケータ |



27. バッテリーチャージャー
28. ケース(バッグXS)

操作

クイックガイド

詳しい操作説明は、以下のセクションを参照してください。

1. バッテリーの充電(17ページを参照)。
2. バッテリーの取り付け(17ページを参照)。
3. リフレクター/フロントガラス[5]から持ち運び用キャップを取り外します。
4. スタンドアダプター[3]をライトスタンドに適合させ、クランプねじ[4]で固定してください(18ページを参照)。
5. チルトロックノブ[2]を緩めて、フラッシュのチルトポジションを調整します(18ページを参照)。
6. テストボタン[15]を押したままにすることにより、ユニットのスイッチをオンにします(11ページを参照)。
7. エネルギー/設定ダイヤル[16]を押したままにし、次にテストボタン[15]を短く押すことにより、フリーズ/通常モードを選択します(11ページを参照)。
8. エネルギー/設定ダイヤル[16]によりフラッシュライトの出力を選択します(12ページを参照)。
9. テストボタン[15]を押すことにより、フラッシュをテスト発光します。
10. 同期ボタン[18]で同期設定[21]を選択します(13ページを参照)。
11. モデリングボタン[14]でモデリングライト設定[19]を選択します(15ページを参照)。
12. 充電完了ボタン[17]で充電完了信号設定[20]を選択します(15ページを参照)。
13. ライトシェーピングツールを取り付けます(18ページを参照)。

電源オン/オフ

1. ユニットをオンにするには、ディスプレイ[13]が設定情報を表示するまでテストボタン[15]を押したままにします。
2. ユニットをオフにするにはディスプレイ[13]から表示情報が完全に消えるまでテストボタン[15]を押したままにします。

B1Xのスイッチをオフにすると、現在の設定が保存され、フラッシュのスイッチが再度オンになったときに適用されます。

注意:

バッテリー節約のため、B1Xは、操作のない状態で30分経過すると自動的にスリープ状態になり、60分経過すると完全にシャットダウンします。60分後の自動電源オフは、いずれかのオプションのAir Remote リモコンの「HEAD」を押して無効にすることができます。この操作により、B1Xはディープスリープモードに設定され、バッテリーが空になるか、リモコンの「HEAD」またはB1X本体のいずれかのボタンを押してB1Xが再度有効化されるまでその設定が維持されます。

自動電源オフを無効にするオプションは、後からアクセスできない場所に撮影前にライトをセットアップする必要がある場合に非常に役立ちます。ディープスリープモードでも、満充電されたバッテリーが約50時間(室温で測定)で空になることに注意してください。

Normal(通常)/Freeze(フリーズ)モード

B1Xは、2つのモードで操作でき、さまざまな撮影状況で用途を最大化できます。

- ・ Normal(通常)モード: エネルギー範囲全体にわたり色温度の安定性が最適化されます。ほとんどタイプの撮影に最高のオプションです。
- ・ Freeze(フリーズ)モード: 閃光時間が優先されます迅速なアクションをフリーズさせる撮影に最適です。

エネルギー/設定ダイヤル[16]を押したままにし、次にテストボタン[15]を短く押すことにより、通常/フリーズモード間で切り替えます。フリーズモードが選択されたら、フリーズモードインジケーター[24]がディスプレイ[13]に表示されます。

以下から通常モードとフリーズモードでの閃光時間の概要を確認してください。

エネルギー (スケール)	エネルギー (Ws)	閃光時間(ノーマル モード)		閃光時間(フリーズ モード)	
		t0.1 (s)	t0.5 (s)	t0.1 (s)	t0.5 (s)
10.0	500	1/400	1/1,000	1/400	1/1,000
9.0	250	1/600	1/1,500	1/1,200	1/2,000
8.0	125	1/800	1/2,000	1/2,100	1/3,000
7.0	62.5	1/1,300	1/2,500	1/3,100	1/4,500
6.0	31.8	1/1,800	1/3,000	1/4,000	1/6,000
5.0	15.9	1/2,400	1/4,000	1/5,000	1/8,000
4.0	8	1/3,300	1/6,000	1/5,900	1/12,000
3.0	4	1/4,200	1/8,500	1/6,700	1/16,000
2.0	2	1/6,000	1/11,000	1/8,000	1/19,000

光出力(エネルギー)の変更

フラッシュライトの出力は、相対fストップスケールのディスプレイ[13]に表示されます。最大エネルギー (500Ws) を10として表示されます。

フラッシュライトのエネルギーレベルを変更するには、エネルギー/設定ダイヤル[16]を使います。

- ・ 1/10fストップ刻みでエネルギーレベルを変更するには、エネルギー/設定ダイヤル[16]を回します。
- ・ 1fストップ刻みでエネルギーレベルを変更するには、エネルギー/設定ダイヤル[16]を押して、回します。

ユニットの充電が完了しフラッシュの発光が可能になるとテストボタン[15]が光ります。

テストボタン[15]を押して、フラッシュをテスト発光します。

同期設定の選択

現在の同期設定は、ディスプレイ[13]の同期/Air設定セクション[21]に表示されます。

ワイヤレス同期設定:

- ・ AIR: 内蔵Profoto Airトランシーバーが有効化されています。B1Xは、Profotoが提供するオプションのProfoto Airトランシーバーのいずれかからトリガーおよび/または制御するよう設定されます。
- ・ SLAVE: 内蔵IRスレイブアイ[12]が有効化されます。フラッシュは、別のフラッシュが発光するか、またはIR信号が検出された場合、スレイブ同期します。

ケーブルによる同期のみ:

- ・ 空欄: 同期設定を空欄にすると、B1Xは、ケーブルによってのみ同期されます。

短く同期ボタン[18]を押すことにより、ワイヤレス同期設定を有効/無効にします。ワイヤレス同期オプション間で切り替えるには、同期ボタン[18]を押したままにします。

Air(およびTTL)操作

ディスプレイ[13]の同期/Air設定セクション[21]で「AIR」が選択されている場合、B1Xは、Profotoが提供するオプションのいずれかのProfoto Airトランシーバーからトリガーおよび/またはコントロールされるよう設定されます。B1Xは、Profotoが提供するすべての利用可能なAirの付属品に対応しています。これには以下の表に記載されているものが含まれます。

1. 同期設定の選択の指示に従い、Airを有効にします。
2. Airが有効になったら、同期/Air設定セクション[21]のチャンネルとグループの設定が点滅するまで、同期ボタン[18]を押したままにし、その後ボタンを放します。
3. チャンネルを変更するには、エネルギー/設定ダイヤル[16]を押して、回します。
4. グループを変更するには、エネルギー/設定ダイヤル[16]を回します。

注意:

設定可能な8つのさまざまなチャンネル(1~8)があり、それぞれのチャンネルに6つのグループ(A~F)があります。同じチャンネルに設定されたすべてのライトは、同時に同期されます。グループは、設定が2つ以上のライトで行われた場合、個々のライトまたは同じチャンネルのライトのグループを遠隔操作するために使用されます。

B1Xと互換性のあるAir アクセサリ (詳しい操作方法については、それぞれのアクセサリのユーザーガイドを参照してください)。

オプションの Profoto Airの 付属品 **B1X 500 AirTTLとの組み合わせで使用可能な機能**

	フラッシュ同期	リモートコントロール	TTL (自動調光)	HSS (ハイスピードシンクロ)
Air Remote TTL*	X	X	X	X
Air Remote*	X	X		
Air Sync*	X			
Air USB**		X		

* オプションのカメラマウントトランスミッタ。TTL対応のカメラについては、Profoto.comをご確認ください。

** Profoto Air Studio ソフトウェアを使用するための dongle

スレイブ同期操作

ディスプレイ[13]の同期/Air設定セクション[21]で「スレイブ」が選択されている場合、B1Xユニットは、フラッシュの発光に加え、ほとんどの赤外線同期トランスミッタからの赤外線信号を感知することができます。

1. 同期/Air設定セクション[21]が空欄の場合、同期ボタン[18]を1回押し、ワイヤレス同期を有効にします。「AIR」または「スレイブ」と表示されます。
2. 「スレイブ」と表示されていることを確認します。表示されていない場合、「スレイブ」と表示されるまで同期ボタン[18]を押したままにします。

ケーブルによる同期操作

ケーブルによる同期はすべての同期モードで可能です。カメラまたはフラッシュメーターからの同期ケーブルを、B1Xユニットの同期コネクタ[11]に接続してください。

モデリングライト設定

現在の設定は、ディスプレイ[13]のモデリングライト設定セクション[19]に表示されます。

1. モデリングボタン [14] を押して、モデリングライトのオン/オフ切り替えることができます。
2. モデリングライトをオンにし、モデリングボタン[14]を押したままにして、「PROP」と「FREE」の間で切り替えます。
 - ・ PROP: 選択したフラッシュライトのエネルギーレベルに応じてモデリングライトの強さを自動的に調節します。
 - ・ FREE: フラッシュライトのエネルギーレベルに関係なく、手動でモデリングライトの出力を設定します。
3. 「FREE」が選択された場合: モデリングライトをオンにし、パーセントの数値が点滅するまで、モデルボタン [14] を押したままにします。パーセントの数値を変更するには、エネルギー/設定ダイヤル[16]を回します。数秒後、ディスプレイは、点滅を停止し、新しい数値が設定されます。

注意:

モデリングランプを低出力にするとLED モデリングライトがパルス発光し、露出計が作動する場合があります。露出計を使用するときは、モデリングライトを全出力にするか、または切ることをお勧めします。

充電完了信号の設定

現在の設定は、ディスプレイ[13]の充電完了信号の設定セクション[20]に表示されます。

- ・ BEEP: ユニットは、再度フラッシュの準備ができるとビーブ音で通知します。
- ・ DIM: モデリングライトは、フラッシュの後、オフになり、再度フラッシュの準備ができると、オンになります。
- ・ DIMBEEP: モデリングライトは、フラッシュの後、オフになります。モデリングライトが再度フラッシュの準備ができると、ユニットからビーブ音が鳴り、モデリングライトが点灯します。
- ・ 空欄: 充電完了信号がありません。

- 充電完了ボタン[17]を使って、充電完了信号設定を選択してください。
- ・ 充電完了ボタン[17]を押して、「BEEP」のオン/オフを切り替えることができます。
 - ・ 充電完了ボタン[17]を押したままにして、「DIM」のオン/オフを切り替えることができます。

誤った露出のアラーム

ユニットの準備ができる前に、フラッシュが発光すると、長いピープ音が鳴り、ディスプレイが点滅します。これらの信号は、フラッシュライトが設定された数値に完全には対応していないことを示しています。設定したライトの出力を満たしていない場合でも、B1Xは常に継続してフラッシュします。瞬間の把握が完璧であった場合、画像は使用可能である場合があります。

BEEPが無効になっている場合、音声アラームは部分的に無効になります。BEEPが無効になっている場合、B1XがTTLの操作で使用され、シークエンス撮影でカメラについていけない場合のみ、音声アラームのみがあります。

クイックバースト

クイックバーストは、光の出力を一定に保ったままB1Xが充電されるよりも早いペースで一連（バースト）のフラッシュの発光を可能にする、自動的に有効化された機能です。この機能は、光の出力がフル出力未満に設定されたときのみアクティブになります。バーストの長さ、フラッシュの数は、繰り返しの速さと設定した光の出力により異なります。設定した光の出力が低ければ低いほど、トリガーされるバーストは長くなります。この機能のおかげで、B1Xは、「誤った露出のアラーム」をトリガーすることなく、より低い電力で、1秒あたりに最大20のフラッシュをトリガーできます。光の出力の精度は、クイックバーストがアクティブである場合、多少低くなることに留意してください。

取扱い

バッテリーの搭載

1. バッテリーを搭載するには、バッテリーパックをB1Xユニットに取り付け、バッテリーが所定の位置にロックされるまで、しっかりと押しします。「カチッ」という音が聞こえたら、バッテリーパックは適切に固定されています。
2. バッテリーを取り外すには、まずB1Xユニットをオフにします。バッテリーリリースボタン[9]を押し、バッテリーパックを引き出します。

注意!

バッテリーおよび/またはB1X筐体の損傷を防ぐために、輸送中は常にバッテリーを取り外すことをお勧めします。輸送中の損傷はProfoto保証の対象にはなりません。

バッテリーの充電とメンテナンス

最適なパフォーマンスのために、バッテリーは、使用前に完全に充電される必要があります。バッテリーは、あらゆる充電レベルから充電可能です。Profotoバッテリーチャージャー2.8A、Profotoバッテリーチャージャー4.5A、またはProfoto車載用チャージャー1.8Aのみを使用してください。

バッテリーを長期間保管する場合、保管する前に50%充電しておく必要があります。長期間、空のバッテリーを保管しないでください。深放電が起り、セルが破損する可能性があります。使用することなく6カ月以上バッテリーを保管した後、バッテリーの充電レベルを確認することを強く推奨します。2つまでの内蔵バッテリーレベルインジケーターが点灯している場合、保管を続ける前に、バッテリーを再度50%充電する必要があります。常にProfotoバッテリーチャージャー2.8Aまたは4.5Aを使用して、長期間使用されていない空のバッテリーを充電してください。この場合、カーチャージャー1.8Aを使用してはなりません。

1. バッテリーを取り外します。
2. バッテリーチャージャーをバッテリーパックに接続します。
3. バッテリーチャージャーが充電が進行中であることを示していることを確認してください。
4. バッテリーチャージャーが充電が完了したことを示している場合、バッテリーチャージャーを接続解除し、バッテリーを取り外すことを推奨します。

スタンドの取り付け

1. スタンドアダプター[3]をライトスタンドに適合させ、クランプねじ[4]で固定してください。
2. B1Xユニットは、チルトロックノブ[2]を緩めると上下に向くように動かせます。ユニットが正しい向きになったら、チルトロックノブ[2]を締めて固定してください。

Profotoライトシェーピングツールの取り付け

B1X内蔵リフレクターは、高出力で、幅広くて、均一な光の拡散を生み出します。また、B1Xは、120以上のライトシェーピングツールに対応しており、これは、すでに美しいライトを、ありとあらゆる性質の光に形作るために使用できます。

標準的なリフレクターマウントがあるすべてのツール(留め具のあるラバー製カラー)

ほとんどのリフレクターにはProfotoの独自のクランプ機構が搭載されており、これにより、リフレクターの搭載が容易になり、ズームスケール[6]に沿って、リフレクターを前後にスライドさせるだけで、光を形作ることができます。

1. リフレクターの留め具をロック解除します。
2. リフレクターをB1X上にスライドさせます。ズームスケール[6]を使って、リフレクターを置きたい位置まで動かします。
3. リフレクターの留め具をロックして固定します。

アンブレラの取り付け

アンブレラは、アンブレラホルダー[7]内にアンブレラのシャフトをスライドさせることにより、容易に取り付けることができます。アンブレラのシャフトの直径は、適合するためには、7 mm~8 mmである必要があります。アンブレラを使用する場合、外部のリフレクターを同時に取り付けることはできません。

1. アンブレラのシャフトをアンブレラホルダー[7]にスライドさせます。
2. 数センチ入ったところで、摩擦が大きくなります。それからさらにアンブレラシャフトを数センチ、アンブレラホルダー[7]にスライドさせます。

フロントガラスの交換

フロントガラス[5]は、オプションのフロントガラスまたはグラスドームと交換できます。オプションのグラスドームにより、いずれかのクラシック Profoto「ズーム可能」リフレクターを使用しているとき、多少「ズーム効果」を向上させることができます。ただし、OCFズームおよびOCF マグナムリフレクターを含む、いずれかのProfoto OCFライトシェイピングツールには推奨されません。

1. B1Xをオフにして、バッテリーを取り外します。
2. ユニットが完全に放電され、冷却されるまで5分間待ってください。
3. フロントガラス[5]を固定しているスプリングを左右にゆっくりと押しこむことにより、ガラスをゆっくりと取り外します。
4. フロントガラス/グラスドームを所定の位置に慎重に適合させます。ガラスを保持しているすべてのスプリングを所定の位置に戻し、フロントガラス/グラスドームをしっかりと保持していることを確認してください。

フラッシュチューブとLEDモデリングライトの交換

モデリングライトLEDの交換は、プロによるサービスのために現地のディーラーまたは販売店にご連絡ください。

その他

TTL

B1Xは、オプションのAir Remote TTLのいずれかとともに使用する場合、TTLをサポートします。カメラのホットシューにマウントした TTL リモートを使って、マニュアル計測なしに、完全に自動的にカメラにフラッシュ出力を制御させることができます。TTL はフラッシュではなく、リモートで選択/有効化されることに留意してください。

カメラが、B1Xの範囲外のフラッシュ出力を必要とする場合、B1XはLCDディスプレイ[13]上でエネルギー設定を点滅させ、長いビープ音を発してこれを知らせます(充電完了信号がオンである場合にのみビープ音が鳴ります)。

フラッシュ出力がカメラによって自動的に設定されるたびに、自動フラッシュ露出インジケータ [26] ‘AUTO’ が点灯します。インジケータは、リモートからTTLフラッシュコマンドを受信した後、10~15秒間点灯します。

重要:

Profotoは、継続的にファームウェアのアップグレードをリリースし、TTLを改善し、より多くのカメラメーカーや最近のカメラモデルに適合するようTTLの互換性を拡張します。ご使用のprofoto製品をprofoto.com/myprofotoに登録して、最新のアップグレードにアクセスして、新しいアップグレードが利用可能になったら通知を受けてください。オプションのTTLリモートの詳細情報や、互換性のあるカメラ一覧については、Profoto.comにアクセスしてください。

HSS

Profoto B1Xは、オプションのAir Remote TTLトランシーバーのいずれかとともに使用する場合、HSS (ハイスピードシンクロ) をサポートします。HSSにより、カメラの最速外部フラッシュ同期速度 (x-sync) よりも高速なシャッター速度でフラッシュ撮影が可能になります。このオプションは、明るい状態で撮影する際に環境光を制限するのに極めて役立ちます。

ご使用のカメラブランドにより、HSSは、フラッシュではなく、リモートまたはカメラメニューのいずれかで選択します。HSSモードの使用時、毎回のフラッシュごとに、B1XのLCDディスプレイ[13]には、「[]」記号が数秒表示されます。

注意:

*HSSが有効になっているときは、カメラのシャッターが開いている間、フラッシュが一定の出力で継続的に発光します。これは、HSS使用時にフラッシュの出力を一定にしても、カメラのシャッタースピードが変化した場合、フラッシュ露出が変化することを意味します。また、フラッシュでフリーズモードまたは通常モードのいずれが選択されているかにかかわらず、閃光時間がカメラのシャッタースピードと同じであることも意味します。

*HSSを頻繁に使用すると、B1Xフラッシュチューブの寿命に影響を及ぼします。

温度制限インジケータ

温度制限インジケータ[25]は、B1Xが内蔵過熱保護を有効化する温度レベルに達した場合、点灯します。この場合、温度レベルが許容されるレベルに戻るまでパフォーマンスが制限されます。

ファームウェアの確認

1. B1Xのスイッチをオフにします。
2. B1Xスイッチが点灯するまで、エネルギー/設定ダイヤル[16]を押したままにし、次にテストボタン[15]を押したままにします。
3. 最新のファームウェアのバージョンはディスプレイ[13]に表示されず(A7など)。

ファームウェアのアップグレード

新しいB1Xを使い始める前に、ファームウェアのアップグレードを確認することを強くお勧めします。

最新の無料アップグレードを利用するには、profoto.com/myprofotoでパーソナルアカウントを作成します。アカウントを作成したら、お持ちの製品を登録することを強くお勧めします。製品を登録することにより、製品の新しいアップグレードが入手可能になったら、必ず通知されます。

ファームウェアのアップグレードは、USBポート[10]を介して行います。profoto.com/myprofotoからダウンロードしたアップグレード適用の指示に従ってください。地域のディーラーや販売店に連絡すると、いつでもプロによるサービスを受けることができます。

テクニカルデータ

一般仕様

最大エネルギー	500 Ws
エネルギーレンジfストップ	9fストップ (2.0~10.0、1/256-1/1)
エネルギー範囲 (Ws)	(2.0-500 Ws)
エネルギーコントロール増分	1/10または1fストップ
リサイクル時間	0.1-1.9秒
モデリングライトタイプ	LED
モデリングライト最大出力	2500ルーメン (130Wのハロゲンランプに相当)
モデリングライトの色温度	3000K (バランスの取れた温白色/タングステン)
モデリングライトのCRI (演色)	>90
モデリングライトコントロール	オフ、比例、フリー (5-100%)
フラッシュモードコントロール	フリーズモード (最速閃光) または通常モード (カラーバランス優先)
閃光時間 (ノーマルモード) :	t0.1: 1/6,000s - 1/400s t0.5: 1/11,000s - 1/1,000s
閃光時間 (フリーズモード) :	t0.1: 1/8,000s - 1/400s t0.5: 1/19,000s - 1/1,000s
エネルギーの安定性 (通常モード) :	+1/20fストップ (フラッシュ間)
エネルギーの安定性 (フリーズモード) :	+1/20fストップ (フラッシュ間)

色温度の安定性 (通常モード):	+150K (オーバーレンジ)、+50K (フラッシュ間)
色温度の安定性 (フリーズモード):	+800K (オーバーレンジ)、+100K (フラッシュ間)
内蔵リフレクターによる光拡散	77°のビーム角度
ガイド番号@2m、マグナムリフレクタによる100ISO	452/10
バッテリー	
バッテリータイプ	交換可能なリチウムイオンバッテリー 14.4V / 4.7Ah
最大バッテリーフラッシュ容量	設定エネルギー フラッシュの数 10 <325 9.0 <650 8.0 <1300 7.0 <2600 ... 2.0 <83200 f-stopを1段下げると、出力が半分になり、最大フラッシュ数が2倍になります。
最大バッテリーモデルライト容量	<120分 (モデルライト最大)
バッテリー寿命	充電回数300回 (80%の容量維持)
バッテリーステータスインジケータ	バッテリー残量のパーセントでおおよそのバッテリーレベルが以下の通りディスプレイに示されます。 3セクション: 100-70% 2セクション: 70-40% 1セクション: 40-10% 1セクションの点滅: <10%

バッテリー充電時間	2.5時間 (オプションのバッテリーチャージャー4.5Aで1.5時間)
-----------	-------------------------------------

バッテリーの動作温度範囲	-10°C~+50°C (-4°F~+120°F)
--------------	---------------------------

バッテリーの保管温度範囲	-20°C~+60°C (-20°F~+140°F)
--------------	----------------------------

同期とコントロール

同期ソケット:	1
---------	---

有線同期電圧:	ISO 10330 規格に準拠
---------	-----------------

有線同期端子:	3.5mmのMini-Phono
---------	------------------

フォトセル/IR スレイベとスイッチ:	搭載
---------------------	----

無線同期と遠隔操作:	搭載。AirTTL に対応したワイヤレス同期制御を内蔵。TTLおよびHSSに対応。(別売りの Air Remote TTLが 必要です。)
------------	---

無線同期距離:	最大300m (1000ft) のフラッシュ同期、最大100m (330ft) のリモートコントロール、TTLとHSS。
---------	--

MAC/PC 制御:	可能。オプションの Profoto Air USB トランシーバ、および Profoto Studio ソフトウェアを経由
------------	---

その他

機能表示:	多機能LCDディスプレイ
-------	--------------

冷却ファン:	搭載。騒音低減のため、温度に応じてファンの回転速度を調整。
--------	-------------------------------

チャージ完了インジケータ:	搭載。準備完了ランプ、低照度、切り替え可能なピープ音。
---------------	-----------------------------

自動ダンピング:	搭載
----------	----

USB インターフェース:	ファームウェアのアップグレードのためのUSB Mini ポート
クイックバースト:	1秒当たり最大20フラッシュのクイックバースト機能。
自動電力節約:	あり。操作のない状態で30分経過すると、スリープモードが有効になります。操作のない状態で1時間経過すると、完全に電源がオフになります(いずれかのオプションのAir Remote リモコンからB1をディープスリープに設定することで回避することができます)。

サイズ

直径:	14cm (5.5")
長さ:	31cm (12.2")
高さ:	21cm (8.3")
重量:	3kg (6lbs) (バッテリー含む)

すべての技術データは公称値であり、Profotoは予告なしに変更する権利を保持しています。

テクニカルデータおよび製品情報は予告なしに変更される場合があります。

344094-BIX.2017年3月。スウェーデンにて印刷。

Profoto AB
Sweden

+46 (0) 8447 53 00
info@profoto.com
www.profoto.com

 **Profoto**